

学校名 : 川西市立陽明小学校 担当教科 : 音楽 氏名 : 野添 洋子

1 海外研修について

(1) 良かったと感じた（期待に応えた）海外研修の内容について（上位3つ）

- ① 現地の子どもたちと触れ合えた
⇒個人旅行では、行けなかったであろう貴重な体験ができた。
- ② インドネシアの生の文化を味わえた
⇒バティック工場で行程を見学でき、安価でバティックを購入できた。
- ③ ホームステイやホームビジットを体験
⇒家庭内に入り、生活環境・習慣や食生活を体験できた。

(2) 収集した資料／教材について

民族楽器、バティック、インドネシアの昆虫・植物の標本キーホルダー、楽譜、本、音楽、民族楽器の図表、ジルバブ（イスラム教の女性が頭に被る布）、菓子、ストリートチルドレンの作品（写真立て）

(3) 授業／学校生活への活用について

- ・ アンクルンやインドネシアの打楽器を使用して、音の違いや演奏法の違いを実感させる。
- ・ インドネシアの「数字譜」を購入した。「楽譜」で実感させる。
- ・ 民族音楽の音楽DVDを鑑賞させ、インドネシア音楽に親しみ、演奏法を身につける。
- ・ 「民族楽器の絵や楽器の表」は、日本の「雅楽」との比較対象にもなる。
- ・ 昆虫のキーホルダーを見ることで、インドネシアの生き物に触れ、日本の昆虫と比較する。
- ・ 「ジルバブ」をかぶり、「バティック」を着てインドネシアをより身近に感じる体験をする。
- ・ 「日本のお菓子」と比較したり、「ハラルマーク」を探したりできる。
- ・ 再生紙でできた、ストリートチルドレンの作った写真立てを、実際に手に取り触れる。
- ・ 影絵（ワヤン）の人形を手にとり、こんなに細かい作業が施されていることを実感できる。

(4) 研修に関する全般的な所感／意見について

- ・ ワテス国立第一中学校の音楽の先生に会え、色々な話ができて良かったが、時間に縛られていて十分な質問ができず残念だった。
- ・ 訪問先の計画や細かい時間配分が、事前にメンバー全員伝わると、もっと充実した研修になったと思う。
- ・ 内容の濃い研修になったが、反省や振り返りの時間が夜遅くになり、体調を崩した方がいた。
- ・ 移動の車の中で共通理解をして、食事の時に交流するなどの時間の有効利用が必要。

2 来年度研修へ向けて ～さらに充実した研修のために～

(1) 事前研修

- ・ それぞれの内容は良かったが、せめて出発前に3回は集まりたかった。
- ・ 文化交流やインドネシアに持参する土産や物品について、参加者内での共通理解が不足していた。

(2) 海外研修について

- ・ 行程も今回のメンバーの要請を程良く受け止めていただき満足している。
- ・ メンバーの体調管理や食事の面でもインドネシア料理の苦手な人向けへの気配り、体調

- 不良の人にも薬や粉末ポカリスエット等、暖かい言葉掛けや心配りに感心した。
- ・ ホテルの食事は、値段は張ったが、美味しかった。元気でいられた。
 - ・ 部屋も思っていたよりも良く、ジョグジャカルタなど安心して、滞在できた。
 - ・ もう少し、自由な時間やゆったりできる時間があっても良かった。
 - ・ 何よりも、個人旅行では訪問できない所を視察、見学できたことに感謝している。
 - ・ インドネシアの民族の多さ、宗教の大切さ、貧富の差、心の豊かさ、笑顔の美しさ等を実感した。
 - ・ 相手を受け入れ、理解しようと努めることのすばらしさを体験できた。

(3) 今後の本研修参加者へのアドバイス

- ・ ホームステイでは、語学のできる人と苦手な人がペアになると良い。
- ・ 指さし会話帳だけではなく、電子辞書があれば、英語でもっと交流できたと思う。
- ・ 「さくら（独唱）」「ふるさと」など、日本の伝統的な歌を歌うと喜ばれる。
- ・ 体調管理のために、自分の疲れを取るグッズを持参すれば良かった。
- ・ 健康サンダルや、自分に合った薬や体温計も持参しておくとう便利だと思う。
- ・ 洋服を購入する時間がないと思い、多めに持参したがホテルで手洗いやクリーニングにも出せた。また、バティックを買って着ることもできるので最小限にとどめても良かった。
- ・ 写真はみんなで共有できた。
- ・ ビデオ係は、2人居た方が何かと良いと思う。

3 各訪問先の所感

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと ⇒それを何につなげるか？／その他所感
7月31日	JICAインドネシア事務所	「インドネシア人の誇り」がきけた。 「多種多様な人種・文化の中で共生している」 「認め合っている」 ⇒日本人の「誇り」ときかれてどう答えられるか？ 子どもたちに投げかけてみようと思う。
	インドネシア大学 日本研究センター	インドネシアの学生の人気の職業は(高給のため)「エンジニア」 「医者」「弁護士」 「いじめ」を理由に命を絶つことは無い。 ⇒インドネシアの学生は、日本の「いじめを苦しめた自殺」や「不特定多数の殺人」の多さに驚く。「いじめ」の理由や「殺人」の理由を児童に考えさせてみようと思う。
8月1日	生物学研究センター	インドネシアには珍しい動植物が存在する。 厳重な管理の下で保管され、研究されている。 日本からの援助規模の大きさを知った。 ⇒動植物標本のキーホルダーを実際に児童に見せて、感じることを発表しあう。 その特徴を述べ、日本の動植物との違いに気付く。

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと ⇒それを何につなげるか？／その他所感
8月1日	ストリートチルドレン 更正施設	ストリートチルドレンになった理由に驚いた。 貧しいだけでなく、目標になるリーダー的な存在への憧れがあると聞き、納得した。 支援しても、元の生活に戻ろうとする子どもたちが多いのも事実のようだ。 ⇒日本の子どもならどうかと児童に考えさせる。 日本なら「生活保護」支援あり。 手作りの再生紙を売り生活している子どもへの思いを児童に聞く。
	JICA関係者との 意見交換会	日本からみた「インドネシア」を聞くことができた。 日本は技術が有るが資源がない。 インドネシアは資源があるが、技術が乏しい。 多文化共生のためには今後どうしていけばいいか？
8月2日	インドネシア語教室	「インドネシア語」の必要性を実感した。 初心に戻って「語学」を学ぶが、なかなか頭に入らない。 ⇒やはり、若い間に学んだ方が早いと実感。
	ホームステイ	言葉が通じなくても、音楽は全国共通語だと確信した。 ⇒「言葉を話さないで音楽で話し合ってみよう。」を授業で児童に伝えたいと思う。
8月3日	文化体験教室 「ガムラン音楽」	ガムランの楽譜は全て「数字譜」であり、 音の長さも、記譜法は無く、音を聴いて覚える(それらしく弾く)ようだ。全て、暗譜して口伝で教え込む。 ⇒西洋音楽は必ず楽譜に忠実に演奏される。
	市場見学・書店	西洋の楽譜とアジアの楽譜の違い ⇒音楽の教科書「1・2・3・」「ドレミ」との違いを発見させる。 バイオリン・ドラムズ・歌の楽譜は五線紙で表現されていた。
8月4日	ゲシアン村小学校 日本文化紹介	子どもたちは、元気に集まってきた。 ⇒嬉しいときの表現方法を子どもに聞いて発表させる。
	ホームビジット	明るく陽気な人柄に、言葉が通じなくても心が洗われた。 ⇒言葉が通じなくても、リズムや遊びはできると実感。
	サイエンスカフェ	キラキラさせた瞳で取り組んでいた。 ⇒「日本の子どもたちの目を輝かせるときは、どんな時でしょう？」と児童に尋ねてみて発表させる。
	JICAボランティア との意見交換会	2年間という貴重な時間を青年海外協力隊・シニア海外ボランティアとして、従事することの意義を聴けた。 家族や職場を一時、中断してまでも価値を見いだして国際協力に従事する姿に感動した。 ⇒童に「2年間、何かに打ち込めるモノを探してみよう。」と尋ねるとどんな意見が返ってくるか？

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと ⇒それを何につなげるか？／その他所感
8月5日	ワテス国立第1中学校	<p>現地の教育現場を訪問し、授業参観や教員との交流を通して、インドネシアの教育システムを理解できた。</p> <p>授業数や時間帯に日本と差があった。特に「音楽の授業や学校の取り組み」を聴き、「インドネシアの音楽を継承していこう」という姿勢が伺えた。</p> <p>⇒日本の伝統文化を担うための音楽クラブがあっても良いのではないかと感じた。</p> <p>日本の「雅楽」を子どもたちが演奏してみたいと感じるかどうかを日本の子どもたちに聞いてみたい。</p>
	スポーツ青年局	<p>自宅を離れて、バレーボールに夢を抱いて頑張っている女子生徒の姿に感銘を受けた。また、そこでボランティア活動をする指導者の意見を聞き、難しさを感じた。</p> <p>⇒日本の子どもたちは、家庭を離れて、共同生活をしながら自分の夢に向かって努力していけるだろうか？</p> <p>自分の将来を実現するためにそこまで徹底できたら凄い。</p>
8月6日	ボロブドゥール遺跡、プランバナン遺跡	<p>曇り空で日の出が見られなかったが、すがすがしい空気と遺跡の雄大さに心が洗われた。</p> <p>⇒日本にも世界遺産がある。</p> <p>「なぜ世界遺産になったか？」も調べ、日本だけでなく世界に視野を広げて興味関心を持たせたい。</p>
8月7日	JICAインドネシア事務所	<p>まとめることで、頭の中がすっきりした。</p> <p>グループに分かれ、発表することで、違った観点が見え、違った考え方が発見できて良かった。</p> <p>子どもたちに発表するときも色々な意見・感じ方があることを把握した上で授業を進めることの大切さを忘れてはならない。</p>
	HIMMATAの学校・寮	<p>想像を絶する環境で生活をする暮らしぶりに唖然とした。</p> <p>そこで、勉強する子どもたちのとびっきりの笑顔に感動した。</p> <p>手作りの作品で収入を得て、活動の資金の取り組み。</p> <p>「音楽は皆の心を豊かにする。」「音楽は万国共通語だ。」と実感した。</p> <p>日本では生活保護で家庭も守られており、生活が苦しくても子どもが働かなくてもやっつけられるシステムになっている。同じ年齢の子どもでも、全く違う教育環境であることを実感した。</p>
8月8日	日本に帰国 伊丹空港のトイレ	<p>最後に日本のトイレが一番美しく清潔感に満ちあふれており、改めて感動した。</p> <p>手洗い場と化粧室のスペースが分かれ、混雑時にスムーズに使用できる工夫を感じた。</p> <p>⇒インドネシアに行き、他国を勉強することで、我が国日本の良さを改めて感じる心になれたことが嬉しい。</p> <p>児童に国際理解教育を伝えていく上で、もっとも大切なことを最後に体験できて良かった。</p>

学校名：神戸市立東灘小学校

氏名：三好 裕子

1 海外研修について

(1) 良かったと感じた(期待に応えた)海外研修の内容について(上位3つ)

① ゲシアン村でのホームビジット

⇒裕福な生活をしている村ではなくて、一般の家庭を見ることができたことがよかった。

ランチも村ではご馳走なのかもしれないが、ごく普通の食事をする事ができた。

「お母さんの宝物はなんですか？」という質問に「息子です。」という返事がすぐあったところが温かく微笑ましかった。

② ゲシアン村の小学校訪問

⇒子どもたちはとても人懐っこく、笑顔で挨拶をしてくれた。言葉があまり通じなくても私たちの言うことを分かろうとする雰囲気があった。

6年生のクラスでは、特別に少しだけ時間をいただき、「鬼のパンツはいいパンツ」を歌い伝え、一緒に踊ってきた。日本の子どもたちと同様、のりがよく元気に歌っていた。音楽やダンスは、言葉が通じなくても一体感を味わえる武器だと思った。低学年のダンスの授業を見せてもらったが、廊下のような所で、とても狭いのだが、子供たちは一生懸命踊っていた。狭い場所でも気持ちがあれば素敵な授業ができるのだと思った。

③ H I M M A T A (スラム街で活動している現地NGOプロジェクト現場)訪問

⇒低い土地に掘っ立て小屋程度の家が並んでいた。

挨拶が苦手な私でも挨拶をすると、返事がすぐにある町。小さな駄菓子屋があったり、食べ物屋があったり。「写真をとってもいい？」と聞くと笑顔でポーズを決めている人たちばかりだった。共同で立てたバスルームがあったり、広場にはごみが無らなっていたり。あまり日本では見ることのできない環境と生活と習慣であった。学校では子どもたちは熱心に学習に取り組んでいた。「ほしいものは？」と聞くと迷わず「知識」という答えが返ってきて感動した。また、私たちとの交流のために流行の歌を歌ってくれたり、音楽を奏でてくれた。とてもしっかりした態度や歓迎を表してくれる態度に感動した。

先生方には教育の必要性やそれに対しての熱い思いがあり、未来をみて努力されていたのが印象的だった。

(2) 収集した資料/教材について

- ・インドネシアの写真・動画

(ジルバブのファッション、食べ物、建物・道路の様子(バイク5人乗り 馬車 ベチャなど)、家の様子、小学校での子どもたちの様子)

- ・イスラム教の絵本、日本の漫画
- ・影絵、パティックのセンス、ジルバブ、ペチ(イスラム教の男性がかぶる帽子)、太鼓
- ・インドネシアの紙幣

(3) 授業/学校生活への活用について

- ・写真 ⇒ インドネシアの紹介(家 道路 食べ物 学校 子どもたちなど)
- ・本、ジルバブ、帽子 ⇒ イスラム教の紹介(ジャワ島では90%の人口を占める)
- ・パティック、影絵、ガムラン音楽 ⇒ 文化の紹介
- ・漫画 ⇒ 流行しているものの共通点の紹介

(4) 研修に関する全般的な所感/意見について

- ・同じものをみても、人によって感じ方や受けとめ方が違うことに、毎日の振り返りや話し合

いで気がついた。したがって、自分が感じたことをメインに子どもたちに伝えていくのはまた違うと思った。

- ・インドネシアでは気がついたことや発見した事実のみを最初に子どもたちに伝えていこうと思う。写真や本を通して、子どもたちがインドネシアとの共通点や相違点を発見し、自分なりにインドネシアに対しての思いを抱いてほしいと思った。

2 来年度研修へ向けて ～さらに充実した研修のために～

(1) 事前研修

- ・インドネシアのことについて詳しく教えていただき、最初に抱いていた不安は自分の中で解決できた。
- ・新たな不安も抱いたが、仲間と共有することで薄れていった。
- ・土産や現地での仕事の役割分担が前日にできたのはよかった。
- ・土産は合計でいくら使って、一人当たりいくら負担するといったあたりまで話し合えるとなおよいと思う。

(2) 海外研修について

- ・海外研修は旅行と違って、他国の普段見ることのできない生活、文化や研究機関を見ることができる。
- ・意外性があつたり素敵なところを発見できたりして、一日のスケジュールがいっぱいになるのは分かるが、腹痛が絶えなかった私には、ちょっとハードであった。少なくとも日本ではないし、普段の生活とちがうし、体力勝負のところもあるので、17時か18時には夕食、19時には振り返り話し合いを始めることができれば、睡眠時間も確保され、健康管理も十分できると思う。
- ・話し合いは大事だが、できれば自分の意見を長時間にわたって言うのではなく、「気づいたこと・発見したこと」を最低限共有できればいいのではないかなと思う。

(3) 今後の本研修参加者へのアドバイス

- ・健康管理（いつも使っている薬は利かない場合があるので、腹痛の薬は色々持って行った方がよいと思う。）また、トイレで流せるティッシュも必須だった。
- ・プレゼントが多すぎると、持って帰ることになる。ホームビジット ホームステイは、個人的に用意し、小学校や中学校、ストリートチルドレンの施設には、あらかじめきっちり計算した上で、みんなで準備をしたほうがよいと思われる。また、大人数がいる施設に土産を渡す場合は、代表者にまとめて渡すほうが平等に配布されていいと思う。
- ・ホームステイやホームビジットでは、家のガラスなどに貼れる飾り（グッズ）に話題性があり、会話がつながり、大人も楽しんでいたので、よかったと思う。
- ・自分で気がついたこと発見したことを、いかに児童に伝えるか考えていると、ちょうどよい教材が市場やお店で見つかり、自然と授業案も浮かびました。インドネシアで自分が一番目に付いたことを大切にしてほしい。

3 各訪問先の所感

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと ⇒それを何につなげるか？／その他所感
7月31日	JICAインドネシア事務所	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に研修参加した方々の質問と答えを聞くことができてよかった。 ・エビの養殖はインドネシアの人たちがお金のため（生活のため）にマングローブをつぶしたことを知り、悲しく思った。

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと ⇒それを何につなげるか？／その他所感
7月31日	インドネシア大学 日本研究センター	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシア大学で日本語を学んでいる生徒はみんな流暢な日本語を話していた。 ・将来の夢も明確で、日本の留学の予定が決まっている生徒もいた。 ・日本の漫画「ドラえもん」がきっかけで日本語を学んだ生徒もいた。 ・「学校に行きたくないなら行かなければいい」という言葉を聞いて、残念に思った。日本の場合行きたくないのではなくて、何らかの精神的な事情で行くことができない場合が多いからだ。行きたくないわけではない。教育者である以上、やはり教育を大切に思っしてほしいと思った。カウンセラーなら別だが。 ⇒日本の子どもたちには、「ドラえもん」がインドネシアの子どもたちに愛されていることを伝えたい。
8月1日	生物学研究センター	<ul style="list-style-type: none"> ・シーラカンスやラフレシアなど、有名な動植物の標本がある。新種が発見されるたびに、こちらのものが原点となり研究される。 ⇒クラスの子どもたちは生物が大好きなので、インドネシアの紹介で伝えたい。
	ストリートチルドレン 更正施設	<ul style="list-style-type: none"> ・「いかに自立させるか」を目的に活動していた。生活習慣は、幼い時に教育する。大きくなったら、仕事をし、お金をもらうということを覚える。紙すき、ものを作るなど、35歳までの自立を支援する。 ⇒インドネシア紹介で写真を見せたい。自立する大切さを感じてほしい。
	JICA関係者との 意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の教師海外研修でホームステイを実施するかしないかは、私たちにしかかっているということを知り、驚いた。 ・みなさんと気軽に話ができよかった。
8月2日	インドネシア語教室	<ul style="list-style-type: none"> ・数字、挨拶、自己紹介をインドネシア語で言えるようになった。 ・クイズ形式にすると楽しく学ぶことができた。 ⇒英語活動で、世界の挨拶の言葉をカルタ形式にして遊びながら触れるようにする。
	ホームステイ	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスチャンの家でホームステイをさせてもらった。家にはマリア像やキリストの絵などがあった。 ・お手伝いさんを雇っていて、孫や小さい子どもの世話は、お手伝いさんの子どもたちも手伝っていた。 ・ホームステイの目的は、インドネシアを勉強している人たちを助けること。そして、「収入」だった。 ⇒世界の人と触れ合うチャンスを大切にしていた。そういう姿勢を子どもたちに伝えることができたらと思う。また、宗教を大切にしていた点も伝えたい。
8月3日	文化体験教室 「ガムラン音楽」	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜が数字で表記されていて驚いた。 ・簡単そうに見える楽器は、演奏してみると細かいルールがあり、とても興味深かった。

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと ⇒それを何につなげるか？／その他所感
8月3日	市場見学・書店	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物をするのに、先にこちらから半額くらいの安い値段で交渉するのがコツであることを知った。 ・買い物は、会話を通して楽しむものだった。
8月4日	ゲシアン村小学校 日本文化紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・運動場がない。 ・教室はたくさんあるが、中には簡易教室もあった。落ち着いて席についており、一斉授業をしていた。 ⇒教室や体育をする場所は簡素だが、前に大統領の写真を飾ってある違いや、一斉授業でみんな席について学習している点を紹介し、どの世界でも勉強していて学ぶことは大切であることを知らせる。
	ホームビジット	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭料理をいただいた。テンペ（大豆などをテンペ菌で発酵させる醗酵食品）は、一般的な家庭料理だと知った。なんとなく少しすっぱい感じがした。 ・井戸があり、台所とトイレは別にある。台所は外にあり、日本人である私は、個人的には衛生面が気になった。 ⇒トイレや台所が離れにある不思議さ、そして、寝たりくつろいだりする部屋を紹介し、日本とちょっと違う点がありながらも、同じ点も多いことを感じさせたい。
	サイエンスカフェ	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは素敵ならうそくを作り、喜んでいた。 できれば、ゴミ袋をあらかじめ用意しておいて、ろうそく作りに使用した紙コップを捨てる位置を指摘しておけば、たとえ、そこに捨てないでポイ捨てになったとしても、よりよかったように思う。
8月5日	ワテス国立第1中学校 スポーツ青年局	体調不良のため欠席
8月6日	ポロブドゥール遺跡、 プランバナン遺跡	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョグジャカルタの世界遺産ポロブドゥールの歴史的背景をガイドさんに教えていただいた。 ・オランダの侵略による被害も歴史として淡々と説明されていたことに驚いた。 ・ガイドさんは、日本語を2年間独学で習得したらしい。 ⇒日本語を必死で勉強し、仕事を得ている人がいることを伝える。 大乘仏教の世界遺産として残っていることや、搭の中の仏像の説明をする。
8月7日	インドネシア事務所 報告会	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで振り返り、意見をまとめることができて良かった。
	H I M M A T A の 学校・寮	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を通して、一体感を得ることができた。 ・その学校の子どもたちは、知識が一番欲しいと言っていた。 ・「学びたい」という気持ちは、どこの国も共通しているものだと思った。 ⇒どんな状況であれ、教育は必要なものだと思う。学校という集団生活を通して、知識・協力・忍耐・友情を得て、インドネシアの子どもたちもそして、日本にいる目の前の児童たちにもこれからの生活に未来に役立ててほしい。